

令和4年度事務事業評価調書

(1次評価調書)

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	補助交付件数	目標	件	4	4	9	9	9
		実績	件	1	4	5		
		達成率	%	25	100	55.56		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	団体等から提案される事業計画等について、町の活性化を図り広く町民に還元され波及効果もある事業を決定しており妥当。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	地域問題の解決、地域活性化のための事業であり、新規事業は審査において認定しており有効性が高いものを選別できている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	補助金が減額となる中でも継続してきており、町の活性化を図る効果は図られているが、事業後の検証が必要な場合もある。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		補助の周知を図り、対象事業に対し補助金を支出						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		申請件数の増加を見込み予算額を維持				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		補助のPR周知を図りながら、制度活用を広めていく。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		児童生徒国内外研修交流事業		課・グループ名		町民活動課町民活動グループ		
				評価者名		町民生活部長 関 弘法		
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり			項	01	総務管理費	
	施策(中)	02 まちづくり活動の促進			目	08	住民活動推進費	
	施策(小)	03 まちづくり活動への反映を意識した研修の実施			大事業	01	住民活動推進事業	
事業期間		単年度						
要求区分		継続		町長重点政策		—		
根拠法令等		美幌町ふるさとづくり事業の推進に関する規則 美幌町児童生徒国内外研修交流				経費区分		政策的経費
事業概要		次世代を担う児童・生徒の国際感覚や広い視野を養うため、町民団体等が自ら企画・実施をする国内外研修交流事業に要する経費の一部を支援する。						
事業目的		研修を通じて国際的視野を養い、将来のまちづくりを担うことに期待						
事業の対象		小・中・高校生						
実施結果		【実施結果】 新型コロナウイルスの影響により、事業を実施できていない。						
現状と課題		【現状と課題】 コロナ禍で事業を実施できていない。						
事業進捗度		4 予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容	新型コロナウイルスの影響により、町民団体が企画・実施する研修交流事業が未実施。		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	0	0	600	0	600	600
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	600	0	0	600
一般財源	0	0	0	0	600	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	600	0	600	600

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	国内外研修者数	目標		5	5	5	5
		実績		0	0		
		達成率	%		0	0	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		検討	既設団体は町の他の補助金が該当する場合がほとんどであるため、対象となる団体等、事業内容について見直しが必要		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		低い	既設団体等は町の他の補助金が該当する場合がほとんどであるため、対象となる団体、事業について見直しが必要		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	効果的な制度となるよう見直しが必要		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		事業の見直しが必要。コロナ禍が明けたことにより事業再開のため制度について検討する必要がある。					現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			制度を検討するため予算額を維持。	予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		コロナ禍が明けたことにより事業再開のため検討する必要がある。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域コミュニティの核となる自治会を支援することは妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域コミュニティに関する支援であるため、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自治会での事業については対象者が身近であり波及効果も高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		事業継続のため引き続き各自治会への補助金を交付			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状どおりの事業のため予算額を維持	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	年々自治会加入率が減少しているため、加入促進を図る。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌駐屯部隊の充実強化のため、即応機動連隊へ改編されるよう陳情要望活動を実施する必要があることから、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	美幌駐屯部隊の充実強化のため、防衛省及び関係国会議員に対して陳情要望活動を実施する必要があることから、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動に必要な経費であることから、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		第5旅団の機動旅団への改編により、美幌駐屯部隊が対象となったことから、改編後の充足に向けて積極的な陳情要望活動を実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		即応機動連隊への改編後の充足に向けて、複数回陳情を実施するなど計画的な陳情要望活動を実施する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		即応機動連隊への改編後の装備及び隊員増員に向けた陳情要望活動の検討			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	未来を担う若者の声を聞き、まちづくりに反映させることができる。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績件数はないが、対象を若者とすることはまちづくりを行ううえで有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は掛かっていないため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止				評価結果
		事業開催へ向け、広報掲載などの周知活動を行う。				
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				現状維持
		予算をかけない方法でPRを行っていく。		予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		若者世代が開催しやすいよう、土日の開催についても検討を行う。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	ボランティア参加人数	目標	人		110	200	250	300
		実績	人		144	200		
		達成率	%		130.91	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	今後の地域活動の支え手となるボランティアを発掘・育成するためにも必要である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	能力・年齢を問わずボランティア登録が可能であり、ポイント制度導入により達成感が出ることでモチベーションも維持される。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	高額な景品でないが、登録者増との成果が出ており、経費は適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現在、地域の”ささえ手”となるボランティア・社会活動に参加し、ポイントをためると景品と交換することができるボランティアポイント事業（美幌町社会福祉協議会が実施）の支援を行っている。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			今後のボランティア人材の発掘と育成を推進するためにも、今後も継続して予算措置を行う必要がある。	予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		ボランティア人材を育成するなかで、複数の方がボランティア団体に所属している実態が見受けられることから今後、多くのボランティア人材を確保できるよう事業を見直していく必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	隊員の採用人数	目標	人	1	1	2	1	1
		実績	人	1	1	2		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	国の支援制度の下、外部視点を取り入れた喫緊の地域課題解決を図る取組であり妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	ミッションが特定され分かりやすい一方、報酬水準がそれほど高額ではないため、事業のマネジメントを含めたすべてを任せること			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	国の支援制度があるため費用は最小限である一方、マネジメント役である行政職員の負担が大きくなっている傾向もあり、効率性			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 本制度を活用する場合に、目的や制度設計等が適切に設定されているか担当部局と丁寧に協議しながら取り組みを進める。また、他支援制度との併用など先進地事例を常に収集・研究し、本町における取り組みも検討していく。					評価結果	
		○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
	予算	本制度の活用を見込み、現状維持。 (隊員募集に係る経費)				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		効果的な制度活用方法の調査研究及びマネジメント体制の検討						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

		令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費	(千円)	0	0	1,902	11	814	660
国支出金		-	-	0	0	0	0
道支出金		-	-	0	0	0	0
地方債		-	-	0	0	0	0
その他		-	-	0	0	0	0
一般財源		0	0	1,902	11	814	660
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	0	0	1,902	11	814	660

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	制度を活用した地方創生各種施策の推進、町の財源確保対策及び町のPRを行う上からも妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	ポータルサイトへ掲載することで寄付金増額及び町のPRに繋がることから有効であるが、サイト掲載以外の手法も検討が必要。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	ポータルサイト、直接寄付によって受け付けており、効率的な事務を実施していることから、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果	
		ポータルサイトへのプロジェクト掲載数を増やし、また、独自でPR用のチラシを作成して配付し、本町への企業版ふるさと納税を通じた官民連携による地方創生各種施策の推進を図る。			拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				
		独自で制度PR用チラシを作成するため、予算を拡充する。	予算反映額 (概 算)	154千円		
今後の改善点	効果的な制度活用方法の調査研究及び制度活用希望企業に対する情報発信の在り方					

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	政策課政策統計グループ	
ふるさと寄附金事業		評価者名	総務部長 那須 清二	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立	項	01 総務管理費
	施策(中)	05 健全な財政運営の推進	目	05 企画費
	施策(小)	02 財政基盤の強化と効率的な財政運営	大事業	01 政策推進事業
事業期間	終期未定		平成20年度～	
要求区分	継続		町長重点政策	－
根拠法令等	「ふるさとを思う ころろが届く 美幌町ふるさと寄附金」取扱要綱			経費区分 政策的経費
事業概要	ふるさと納税制度を活用した事業推進策として、返礼品の充実による寄附金額の向上及び取扱事業者の売上向上、更には寄付金を活用した事業（寄附金充当事業）の丁寧な説明と内容充実によって、寄付者に対して、返礼品から寄附金充当事業まで広く町の魅力をPRし、更なる美幌町のファンづくり拡大と関係人口創出を図る。 また、町独自で運用しているふるさと納税特設サイトの更なる充実とポストカードやSNS等を活用した情報発信により、更なる事業推進を図る。			
事業目的	ふるさと寄附金の増収と寄附金活用事業充実による特色ある魅力的なまちづくり			
事業の対象	町外者（ふるさと寄附金対象者）			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 寄附金額・寄附件数ともに増加傾向にあり、ふるさと寄附金を原資とした「チャレンジ枠」創設による庁内募集も実施しており、返礼品から寄附金充当事業まで広く充実させている。 【現状と課題】 安定的な体制づくりと確立（更なる推進を図るためには、行政の体制はもちろん民間事業者（中間事業者及び謝礼品取扱事業者）の体制づくり）			
事業進捗度	1 予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	92,968	192,526	150,637	416,820	400,692	400,692
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	87,028	192,323	150,637	416,820	400,692	400,692
一般財源	5,940	203	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	92,968	192,526	150,637	416,820	400,692	400,692

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	寄付件数	目標	件	1,280	10,000	15,000	40,000	400,000
		実績	件	5,697	15,929	40,034		
		達成率	%	445.08	159.29	266.89		
指標 2	寄附金額	目標	千円	43,000	60,000	150,000	400,000	400,000
		実績	千円	87,028	192,044	408,249		
		達成率	%	202.39	320.07	272.17		
指標 3	寄附金活用事業の庁内募集枠	目標	千円			10,000	10,000	10,000
		実績	千円			3,680		
		達成率	%			36.8		
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町の財源確保対策及び町のPRを行う上からも妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	特設サイトを核とした各種PRや返礼品の充実により、寄附件数及び寄附額が増加傾向にあり、有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	寄附受付から謝礼品の発送までを一括して外部委託し、効率的な事務を実施していることから、効率性は高い。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		民間事業者との連携の下、SNSや広告等による情報発信による特設サイトの認知度向上や返礼品の更なる充実を図りつつ、リピーターを含んだ寄附者確保に取り組み、更なる事業推進を図る。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	250,055千円		
今後の改善点		特設サイトを通じた更なる情報発信及び民間事業者（謝礼品取扱事業者及び中間事業者）との連携体制の確立。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	定住自立圏協定に基づく連携事務	目標	件		1	1	1	1
		実績	件		1	1		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	広域連携による効率的・効果的な行政運営は、持続可能な行政運営のため実施すべきであることから妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	上記同様、関係自治体で事業評価をしながら適切な手段として実施するため、実現すれば有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	上記同様、検討する時間は要するが実現した場合は、効率性も含めて検討しているため、高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		管内及び管外の自治体との広域連携を継続する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		新規事業等もないため予算についても現状維持。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		関係自治体と意見交換を通じた広域連携事業の方向性検討						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	高校生による友好姉妹都市間の交流	目標	人	2	2	2	2	2
		実績	人	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	人的交流として高校生短期交換留学が実績を重ねており、事業として妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	高校生短期留学については、将来のまちづくりに資する人材育成という点で有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	高校生短期交換留学については、負担額は適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		引き続き高校生短期交換留学事業を実施する。令和5年度については一般のケンブリッジ訪問団による訪問を実施する。						拡充
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	3,385千円	
		例年どおり高校生短期留学2名派遣を行う。また、ケンブリッジ訪問団による訪問を実施する。						
今後の改善点		高校生短期留学事業は、双方が無理をしないで継続できるよう推進していく。 訪問団派遣は、関係者とも協議し計画的な交流事業を検討する。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名		政策課政策統計グループ				
移住定住促進事業		評価者名		総務部長 那須 清二				
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	03 国際・国内交流の推進			項	01	総務管理費	
	施策(中)	02 国内交流の推進			目	05	企画費	
	施策(小)	01 観光・物産交流の推進			大事業	01	政策推進事業	
事業期間		終期末定						
要求区分		継続		町長重点政策		－		
根拠法令等						経費区分		政策的経費
事業概要		町所有及び民間オーナー所有の移住体験住宅（計４棟）を活用した本町の生活体験の推進を図るとともに、都市圏で開催されている移住相談イベントへの参加や移住特設サイトの活用により、広く本町の魅力をPRし、移住相談から生活体験、完全移住へと段階的な取組を実施する。 また、テレワークスペースを備えた移住相談拠点施設を整備し、民間事業者との協働による事業推進を図る。						
事業目的		移住相談・体験移住を通じた移住者の増加						
事業の対象		移住に関心がある方						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 コロナ禍を契機に地方移住はトレンドになっており、移住相談は着実に増えている。移住相談拠点施設「KITEN」を整備し、民間事業者との協働による事業推進及びテレワークによる地方移住のニーズへの対応が可能となった。 【現状と課題】 民間事業者と協働による移住相談体制の確立						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		－		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	4,702	18,854	105,770	120,515	23,581	23,581
国支出金	0	0	72,302	76,394	0	0
道支出金	0	400	1,200	5,000	2,700	2,700
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	3,163	17,411	22,441	8,500	8,500
一般財源	4,702	15,291	14,857	16,680	12,381	12,381
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	4,702	18,854	105,770	120,515	23,581	23,581

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	移住相談件数	目標	件	60	70	70	70	70
		実績	件	51	138	93		
		達成率	%	85	197.14	132.86		
指標 2	移住体験者	目標	組	10	5	10	10	10
		実績	組	0	3	16		
		達成率	%	0	40	100		
指標 3	移住相談窓口を通じた移住者	目標	人	3	3	3	5	5
		実績	人	0	7	8		
		達成率	%	0	233.33	266.67		
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	人口減少対策の観点から妥当。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	完全移住いただくための手段としては、段階的に移住相談・体験移住と設定することが手段として適切であり、高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	財政支援も現在は豊富にあり、ある程度の税投資は認められるが、完全移住者数だけで判断した場合の効率性は検討必要あり。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		移住イベント参加者など現役世代の移住関心度が高まっていることから、移住相談拠点施設の開設を契機に更なる事業推進と安定的な体制づくりのため、民間事業者との協働による事業推進を図る。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	5,698千円		
今後の改善点		民間事業者と連携した移住相談体制の構築及び移住検討者等に対する情報発信の在り方						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

		令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費	(千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金		-	-	0	0	0	0
道支出金		-	-	0	0	0	0
地方債		-	-	0	0	0	0
その他		-	-	0	0	0	0
一般財源		0	0	0	0	0	0
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	0	0	0	0	0	0

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	ふるさと会活動参加者数	目標	人	140	145	150	150	150
		実績	人	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	R3年度に引き続き、総会・懇親会が中止となったが、美幌町と継続的なつながりを持つ機会を提供できることから、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	「ふるさと応援隊」のような取組で、地域を限定せず、全国から若年層など世代を越えて想いを持つ者となつがる取組が必要。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	総会・懇親会の中止により、地元の品とふるさと納税のお知らせ等を郵送し、一定程度の費用対効果があるため、適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		首都圏や札幌圏で開催する美幌町関連イベント等の協力や案内、美幌町との継続的な関わり（参加機会）を提供することで、現在の関係性の継続、美幌町への関心・理解度の深化を図り、新規会員については、広報やHP等で継続的に周知を図り、会員募集に努める。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当である。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		美幌町の関係人口創出のため、ふるさと会との関係性を継続し、関係する企業との連携など、その他の手段も含めて、取り進める必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者の事故防止のために町が補助することは妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	高齢運転者やその家族など、高齢者の交通事故を考える機会と交通事故防止に有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自主返納の契機となっており、返納時1回限り助成で適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		令和4年度から助成額を2万円から2万4千円に拡充し、引き続き制度の周知を行い高齢者の自主返納を奨励し、交通事故防止を推進する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		助成券の使用枚数により各交通事業者から請求を受け、支払いするため現状維持。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	高齢者による事故が多発している中、より一層住民への周知を行い制度の利用促進を図る。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	運行バス路線	目標	本	6	6	6	6	6
		実績	本	6	6	6		
		達成率	%	100	100	100		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	公共交通の路線を維持することは必要であり妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	公共交通の路線を維持するための補助であり有効			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	国からの補助もあり、経費は適正である			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		地域間幹線系統路線、地域内フィーダー系統路線、町単独補助路線に対し生活バス路線運行維持費補助金を交付。デマンドバス運行によりバス運行地域の拡大を図り、効率的なバス運行をする。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		燃料高騰による補助額の増、デマンドバス運行に伴う増額。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		国・道の補助が安定的に継続されることが路線維持確保の前提のため、国の動向を情報収集する。利用促進のための取り組みとして、バス路線の見直し、デマンドバス停の設置検討等を行う。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(昇込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	光ファイバー整備率	目標	%		100	100		
		実績	%		80	100		
		達成率	%		80	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	光ファイバーを活用した事業の推進は、町をとりまく課題解決に有効であることから妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	関係課にて事業推進の方向性を検討していくため適正である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	関係課との連携を図ることが重要であることから適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 令和4年度で光ファイバー網の整備完了					評価結果 休止・廃止	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 整備完了に伴い予算皆減						
				予算反映額 (概 算)		0千円		
今後の改善点								

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		防災訓練事業		課・グループ名		危機対策課危機対策グループ		
				評価者名		総務部長 那須 清二		
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	07 防災体制の強化			項	01	総務管理費	
	施策(中)	01 防災体制の充実、強化			目	11	諸費	
	施策(小)	02 備品の整備や訓練による防災意識の向上、体制の強化			大事業	01	防災対策事業	
事業期間		終期末定		平成27年度～				
要求区分		継続		町長重点政策		－		
根拠法令等		美幌町地域防災計画				経費区分		政策的経費
事業概要		美幌町自治会連合会や単位自治会などの地域及び消防や警察などの各関係機関と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。 3年に一度、主催する総合防災訓練を実施する。（次期令和7年度） また、美幌駐屯地隊区内2市8町防災担当職員による災害対処研修会を実施し、更なる連携強化を図る。						
事業目的		自助、共助、公助の役割について理解し、災害に対する町民の防災意識の高揚を促し、発災後における被害や混乱を最小限度にとどめる。						
事業の対象		職員、町民、自衛隊、消防、警察、気象台						
実施結果		【実施結果】 職員、住民、自衛隊、消防、警察、気象台等と連携した避難行動訓練、図上訓練等を行う。						
現状と課題		【現状と課題】 地域の特性に合わせた避難行動訓練や図上訓練を開催しているところだが、より多くの町民の参加により、訓練を通じて日頃から避難経路の把握や災害への備えを浸透させ防災意識の醸成を図る。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		－		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	41	71	380	317	67	67
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	200	200	0	0
一般財源	41	71	180	117	67	67
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	41	71	380	317	67	67

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	防災訓練実施回数	目標	回	4	4	4	4	4
		実績	回	1	2	3		
		達成率	%	25	50	75		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域に対し、自助、共助、公助の役割の理解と防災意識の高揚を促すことで、災害時の被害を最小限に抑えるため。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	地域や関係機関と連携して各種訓練を開催することで、災害への備えと、災害が発生した場合における連携強化を図ることができ			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	各種防災訓練を通じ、地域内の連携及び地域の防災意識の高揚を図り、かつ関係機関との連携強化を図る。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 美幌町自治会連合会や単位自治会など地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 近年の災害状況を踏まえながら町民のニーズや意識啓発に即した訓練を実施する。					現状維持	
今後の改善点		全町的な訓練は3年に1度であるが、単位自治会との訓練や図上訓練を通じて、防災意識の向上を図る。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	資格取得助成	目標	人	20	20	20	20
		実績	人	6	6	7	
		達成率	%	30	30	35	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町内事業所の介護従事者不足解消のため妥当である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	資格取得の後押しとなるものとして、介護従事者から高評価であり、有効性は高い。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町内事業所勤務が補助の条件のため、効率性は高い。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 制度の再周知を行い、介護人材確保のため資格取得への促進を図る。				評価結果 現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 事業継続のための予算の確保が必要。					
今後の改善点		事業効果の把握のため、実際に対象となる人の調査などが必要。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	SOSネットワーク登録者数	目標	人			80	80	80
		実績	人			63		
		達成率	%			78.75		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	高齢者が安定した生活を送るため、町を中心とした地域での体制づくりは必要のため妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	見守りが必要な方の登録は、緊急時に早期対応が出来るため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	メールで一斉送信することにより、多くの方に素早く情報を送れるため効率性が高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 地域で見守る体制づくりは必要のため、事業は継続する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状では予算の確保は不要。					現状維持	
今後の改善点		事業の周知により登録者数を増加させること及び見守りに協力していただける方の確保について検討が必要。						
		予算反映額 (概 算)					0千円	

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「たすけあいチーム」への支援は、高齢者等の除雪負担軽減のために不可欠であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	除雪作業の負担軽減のために、小型除雪機の貸与は有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	「たすけあいチーム」のボランティアにより実施されており、経費削減に貢献している。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		高齢者世帯への間口除雪支援は今後も必要であり事業を継続する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		事業を維持するための予算を確保していく。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		除雪機の維持費を安く抑え、長持ちさせるためのメンテナンスが必要。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者等の自立した生活を送るための支援であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	自立した生活を確保するための介護サービスに準じた支援等を提供しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	介護報酬単価を基本としており適正な経費である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		サービスの提供は今後も必要とされており、事業は継続する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		事業継続のための予算の確保が必要。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		未だに制度を知らない高齢者等が存在しているため、本サービス支援事業について更なる周知が必要。			

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名		保健福祉課高齢介護グループ	
		評価者名		福祉部長 河端 勲	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款 03 民生費
	施策(大)	02 高齢者福祉の充実			項 01 社会福祉費
	施策(中)	05 高齢者福祉施設の整備			目 03 高齢者福祉費
	施策(小)	01 小規模多機能居宅介護施設等の整備			大事業 10 小規模多機能型居宅介護
事業期間		4年度		令和4年度～令和4年度	
要求区分		休廃止		町長重点政策 ○	
根拠法令等		介護保険法、美幌町第8期介護保険事業計画			経費区分 投資的経費
事業概要		高齢者が安心して在宅生活を送れるための民間事業者による小規模多機能型居宅介護施設の誘致を行う。			
事業目的		小規模多機能型居宅介護施設の設置			
事業の対象		小規模多機能型居宅介護施設を設置する事業者			
実施結果		【実施結果】 視察の実施			
現状と課題		【現状と課題】 高齢者の日常生活に切れ目のないサービスを提供できる「小規模多機能型居宅介護」のサービスは在宅生活を支える上で重要であるが、町内には無いため早急な設置が求められている。			
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	0	0	94,293	74,151	0	0
国支出金	-	-	0	0	0	-
道支出金	-	-	47,293	41,151	0	-
地方債	-	-	47,000	33,000	0	-
その他	-	-	0	0	0	-
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	94,293	74,151	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	小規模多機能型居宅施設事業所の誘致	目標	箇所		1	1	
		実績	箇所		0	1	
		達成率	%		0	100	
指標 2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標 3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	第8期介護保健事業計画において、小規模多機能型居宅施設の誘致を掲げていることから妥当である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	介護サービス向上のために、通所・宿泊・訪問の3機能を併せ持つ施設が1つでもあることの意味は大きく手段等も適切である。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町内唯一の施設であり、多くの利用が見込まれるため効率性は高い。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止					評価結果
		施設誘致が完了したため、事業完了					
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減					休止・廃止
		事業完了に伴い、予算皆減			予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点							

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	障がい者の方々の健康増進を行うため、現在の事業内容は妥当だと考える。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	助成を行うことで、障がいを持つ方の利用が増えることとなり、「峠の湯」の利用促進が図られるため、事業内容は有効と考える。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	まだ事業開始１年目であるため、今後の利用実績等を見ながら、今後の運用内容等を検討していく。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		障がいを持つ方の健康増進が図られるため、現在の事業内容を継続して実施すべきと考える。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現段階では、利用料金の半額を助成する内容をベースに次年度も実施することで考えている。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	申請した方については、次年度入浴証を自動更新するなど、障がい者の方が利用しやすい方法に変更。 今後も利用者の方から、意見を聞くなど助成内容を確認しながら、事業を進めていく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内に担える団体等がないため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	保護者の希望により受け入れしている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	心身に遅れや障がいのある幼児の発達支援や、保護者の育児不安の解消となっており、指導員が不している中で、最大限通所希望者

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		利用者が増加傾向にあることから、職員（指導員）を増員し利用者のニーズに対応する。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			拡充
		臨時指導員賃金等	予算反映額 (概 算)	6,808千円	
今後の改善点		指導員の不足により、利用者のニーズに対して最低限度のサービスしか提供できていないため、職員（指導員）の増員を図る必要がある。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農福連携を推進していくため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	関係機関と連携を図っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関と連携を図っている段階であるため、効率性は高い。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		今後も障がい福祉サービス事業所や生産者と連携を深め、農福連携を推進する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現行のままで妥当と考える。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		他の障がい福祉サービス事業所や生産者とも連携を深めること。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子ども・子育て支援事業計画を推進しているため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	必要な協議が実施できている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国の制度に基づいているため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現計画及び民間幼稚園の意向を汲んだ事業の推進を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		認定こども園等の適正な運営を図るため、継続して支援する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	町立保育園の今後の在り方を調査・研究する。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町で実施していない0歳児保育を行っており、子育て支援のため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	該当となる保育園は1園のみであり、対象となっている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	保護者の経済的負担の軽減が図られており、多子軽減については町の保育園同様の考え方であるため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		0～2歳児の保護者の経済的負担軽減のための補助金を交付する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		0～2歳児保護者に対して継続して支援する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		認可外保育所の今後の在り方を調査・研究する。			

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		プレママサポート等事業		課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ	
				評価者名	福祉部長 河端 勲	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	04 衛生費
	施策(大)	04 子育て支援の充実			項	01 保健衛生費
	施策(中)	06 母子保健の推進			目	02 予防費
	施策(小)	02 経済的支援の充実			大目	03 母子保健事業
事業期間		終期未定				
要求区分		継続		町長重点政策 ー		
根拠法令等		美幌町妊婦一般健康診査等交通費補助金交付要綱		美幌町特定不妊治療支援金		経費区分 政策的経費
事業概要		子どもを産もうとする世代や妊産婦および子育て世代の経済的支援のため、特定不妊治療に係る費用、妊婦健診時等の交通費の助成、出産・子育て応援支援金の交付を行う。				
事業目的		妊産婦や子育てを支援する。				
事業の対象		妊産婦等及び子育て世代の町民。				
実施結果・現状と課題		【実施結果】 交通費および不妊治療費の助成、出産・子育て応援支援金について、申請に対して100%助成できた。若い子育て世代に対する経済的支援として負担軽減につながっている。 ----- 【現状と課題】 若い子育て世代に、経済支援は必要とされているが、少子化対策には直接結びついていないのが現状。				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	ー	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

		令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)		2,172	2,463	2,473	11,164	12,292	12,292
国支出金		0	0	0	6,266	6,018	6,018
道支出金		269	0	0	1,425	1,504	1,504
地方債		0	0	0	0	0	0
その他		0	200	0	0	0	0
一般財源		1,903	2,263	2,473	3,473	4,770	4,770
人件費 (千円)		0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)		2,172	2,463	2,473	11,164	12,292	12,292

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	妊婦一般健康診査等交通費補助人数	目標	人	88	74	90	80	80
		実績	人	88	74	75		
		達成率	%	100	100	83.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	妊産婦期及び子育て世代への経済的支援は少子化対策として必要である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	目標を上回る実績であり、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	交通費の補助額として適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		子育て世帯の経済的負担を軽減していくため、事業は継続。 令和4年度に道の特定不妊治療費助成制度が終了となり、5年度以降は町独自の特定不妊治療費助成事業として継続。令和4年度から実施の出産子育て応援支援金を継続する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		現状維持のまま実施することが適当である。			予算反映額 (概算)	0千円		
今後の改善点		少子化が加速しているが、これからも安心して子育てができるよう、子育て世代に対し必要な支援を検討していく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子育て世代の総合相談窓口として町民、関係機関にとって重要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	関係機関からの相談では高校生の課題も多く、18歳までの対象は妥当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	子ども子育て交付金対象であり、購入備品も利用者支援事業に活用できており適正である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		18歳までを対象とした総合相談窓口であり、町民、関係機関からの問い合わせ先として、様々な相談に対応している。特に未就学児をもつ家庭や妊婦に対しては、育児不安など保護者に寄り添った支援をしていく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状維持のまま実施することが適当である。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		地域全体で子育て支援ができるよう、関係機関と連携して保護者に寄り添った支援をしていく。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民の健康を守るため、継続して医療体制確保を図る。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	医師会との協力のもと、祝祭日の医療体制の確保が図れた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	津別、大空、美幌町の3町で人口比で費用負担しながら体制確保している。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会としての目的達成を評価、見直しを行う。フレイル予防として口腔ケアの推進を図る。 地域医療推進に向け、開業医の確保も含めた医療体制の維持・整備に努める。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		令和5年度は現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会：新規委員と地域課題を共有し、フレイル予防中心に活動を再開していく。				

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		地域包括ケア推進事業		グループ担当名	国保病院 地域医療連携課			
				評価者名	事務長 但馬憲司			
総合計画	基本目標	02 自然の美しさや暮らしの安心を、みんなで護りあうまちづくり			予算科目	勘	病院事業会計	
	施策(大)	06 地域医療体制の充実				項		
	施策(中)	02 保健・医療・介護・福祉との連携強化				目		
	施策(小)	01 地域包括ケアの推進				大事業		
事業期間		10年度以上		平成	年度	～	令和	年度
要求区分		継続		町長重点政策		—		
根拠法令等							経費区分	政策的経費
事業概要		高齢化が進展する中、高齢者を在宅で支援するため、退院後の支援に向け医療ソーシャルワーカーによる相談体制の充実に努める。						
事業目的		在宅医療支援の充実を図る。						
事業の対象		全町民（病院利用患者）・在宅医療を必要とする高齢者						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 地域医療連携室と他の居宅介護支援事業所等と連携・調整を図った。 【現状と課題】 高齢化の急速な進展と家族関係の多様化により、相談支援業務の増加が予想される。ソーシャルワーカーによる相談支援体制の維持は必須。						
事業進捗度		2 予定通りに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算	令和6年度予算(見込)
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

3. 評価

指標名			単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
指標1	地域医療連携室相談件数 (実人数)	目標	人	960	960	960	960	960
		実績	人	878	852	904		
		達成率	%	91.5	88.8	94.2		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	入退院調整など相談体制の強化が図られている					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	相談体制の強化により医療介護の連携が図られている					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	専門職による相談調整が図られ効果的かつ効率的である					
次年度の取組の方向性	事業	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止						評価結果
	予算	専門職による相談支援体制の維持継続に努める						現状維持
		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 皆減						
		現状維持により実施することが適当である				予算反映額 (概 算)	0 千円	
今後の改善点		医療・福祉・介護等、関係各所との協力連携に努める						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		医療従事者就業支援等事業		課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ	
				評価者名	福祉部長 河端 勲	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	04 衛生費
	施策(大)	06 地域医療体制の充実			項	01 保健衛生費
	施策(中)	05 医療従事者等の確保対策の推進			目	01 保健衛生総務費
	施策(小)	00			大事業	01 保健衛生推進事業
事業期間		終期末定	平成25年度～			
要求区分		継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		美幌町医療従事者就業支援金要綱			経費区分	政策的経費
事業概要		医療従事者が、町内の医療機関などに就職した場合に就業支援を行うことで、看護師などの医療従事者不足の解消を図り、安定的な医療を確保する。				
事業目的		医療従事者の新規就業及び定着を促し、もってその不足の解消を図るとともに、本町の医療の安定的な確保に資することを目的とする。				
事業の対象		町内医療関係施設において新たに常勤雇用として就職する医療従事者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療				
実施結果		【実施結果】 住宅の準備に要する費用及び就業に係る費用を支援した。				
現状と課題		【現状と課題】 離職者はいるが、その期間本町の医療に従事していただいたことを評価することとする。子育てしやすい町づくりをとおして若い世代の医療従事者が定着するなど、今後も離職者対策を検討していく。				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	6,929	7,248	9,000	6,016	8,100	8,100
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	6,900	7,200	9,000	6,000	8,100	8,100
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	29	48	0	16	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	6,929	7,248	9,000	6,016	8,100	8,100

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	支援該当者数	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町内医療機関の医療従事者不足を解消するために町が実施することとは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	目標を達成しており、適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	医療従事者の不足解消および定着に効果があり、適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		医療従事者不足の解消のため事業を継続する。基幹病院として町民にとって重要な役割である町立病院の医療従事者に対する支援も継続する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		医療従事者が不足しているため、今後も予算を現状維持として医療従事者の不足を解消する。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		介護従事者不足の課題があり対策が必要となっている。医療従事者、介護従事者ともに整合性をもちつつ、効果的な支援体制の見直しが必要。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	土づくりから育苗まで民間に委託し、安定した花苗の配布を行っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最低限の経費で事業を行っている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		施設維持管理のため委託費増となるが、現状の事業規模で実施する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		安定した花苗づくりができるよう努める。			

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ	
		評価者名	経済部長 後藤 秀人	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	款	XX
	施策(大)	07 生活環境保全・緑化活動の推進	項	XX
	施策(中)	09 町長の重点施策	目	XX
	施策(小)	01 白樺並木街道の保全	大事業	XX 白樺並木街道の保全
事業期間		終期未定	～ 令和4年度	
要求区分		継続	町長重点政策 ○	
根拠法令等			経費区分	政策的経費
事業概要		2019年3月、本町のカントリーサインが「美幌峠の眺望」とそこに繋がる白樺並木街道（「ロマンチック街道」）をイメージした内容に一新された。今後は、地域住民に配慮しながら交通支障木の維持管理（枝払い）を行うとともに、カントリーサインをイメージした「旧福豊小学校から豊富神社手前の交差点までの直線」を「重点整備区間」（観光資源）として重点的に保全する。		
事業目的		景観を維持するため適切な維持管理（枝払い）を行う。		
事業の対象		町民、観光客		
実施結果・現状と課題		【実施結果】 白樺ヘナンバリングを行い、白樺の台帳を作成した。台帳を作成したことで開発局及び北海道電力と協議する際に、支障となる白樺の管理を円滑に行うことができるようになった。 【現状と課題】 北海道開発局と協議を重ね、維持管理におけるそれぞれの役割を再認識した。美幌町としては景観美化の為に継続的な枝払いの実施する。		
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	- 左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	-	-	0	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	0	-	0	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	ロマンチック街道白樺並木の剪定回数	目標	回数	1	1	1	1
		実績	回数	1	1	2	
		達成率	%	100	100	200	
指標 2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標 3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	景観美化のために維持管理を町で行うことは妥当である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	沿線住民から支障木の相談が寄せられており、枝払いでは対応できない白樺が増えてきている。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	1年に1回の枝払いは景観美化の為に必要である。		
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		現状の規模で事業を実施する。					
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				現状維持	
現状の規模で事業を実施する。				予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		沿線に白樺以外の雑木が目立ってきており、景観のための伐採が必要である。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	関係団体による協力支援により、緑化推進活動・沿線の美化が図られており、妥当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係団体による協力支援により、費用をかけずに事業を行えている。

次年度の 取組の方 向性・改 善内容	事業	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止			評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。			
	予算	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 皆減			現状維持
		現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		引き続き関係団体による協力支援を促していく。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	雇用の創出は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	制度開始から２４件の実績があり、雇用の創出が図られており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費負担がネックとなる新規起業を促す意味からも、適正な経費である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		継続して実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	引き続き、会議所と連携し起業を支援していく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	後継者不足が問題化され、美幌町の経済の維持・発展に必要な不可欠である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	後継者候補がいる比較的早い段階で事業展開が可能な制度であり、国補助の上乗せ補助であることから事業者の負担が軽減されていく。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業承継の問題意識の啓発に繋がっている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止				評価結果	
		継続して実施する				現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					
		継続して実施する		予算反映額 (概 算)			
今後の改善点		事業承継の問題意識の啓発のため、引き続き継続する。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	プチ起業、チャレンジブース利用件数	目標		0	0	1	1	1
		実績		0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		検討	BIHOR0ベースの場を利用している			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	プチ起業の出店はなかった			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	本事業に関する町の負担はない			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き、BIHOR0ベースの中で「チャレンジブース」を確保する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の規模で事業を実施する。					現状維持	
今後の改善点		引き続きチャレンジブースを設け、事業継続する。						
		予算反映額 (概 算)				0千円		

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農家青年配偶者対策はJAとの連携によって事業が継続化されており、事業継続化による成果も得られている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	女性農業体験実習生の受入によって農家青年との交流機会が定期的に設定されている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実習生と農家青年との成婚実績はH16年からの18年間で7組に達しており、成婚実績は道内随一であることから効率的である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		農家青年配偶者対策については地域巡回や面談を通じて結婚相談員や地域との連携を更に密にして関係者が一体となった取り組み体制の強化を図ると共に、令和5年度から農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減		改善	
現状の成果を維持する中で、実習生室や管理人室にある古いストーブ等の備品を改修していく。		予算反映額 (概 算)	1,161千円		
今後の改善点	農家青年配偶者対策については、結婚相談員や地域との連携を密にして取り組み体制の強化を図ると共に、令和5年度から農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農作業に係る地域の労働力不足への対応を図るのため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	労働力不足への対応を図るため、2つ目のコントラ事業をJAが立ち上げられた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	JAが立ち上げたコントラ事業を支援することで、効果的に運用ができているため、効率性は高い。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		今後も他の作物などでコントラ事業の導入が検討されている場合は、関係機関と連携の上、取り進めて行く。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		地域の労働力不足へ対応するため、現状維持となる。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラ事業について関係機関と連携をさらに図っていく。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	新規就農者及び新規農業従事者数	目標	人	4	4	4	4	4
		実績	人	3	8	10		
		達成率	%	75	200	250		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	担い手確保が求められる中、引き続き、支援が必要であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	担い手確保対策として、新規農業者等への支援は、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	担い手確保及び農業経営の安定のため、適切な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		新規就農者、新規農業従事者を支援することにより、担い手の確保に努める。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						現状維持
		新規就農者、新規農業従事者の定着を図る。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		今後とも適切な補助金の活用により、担い手の確保を図っていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域特性に合った新規作物や新技術の研究調査は地域事情に精通する地域農業センターが担う必要があり、大きな成果も得られて
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は農業者への情報提供、提案を実施していくという共通認識でJA、普及せ、日甜と連携して取組まれ
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は、最小限の費用で最大の効果をあげており、効率性は極めて高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			改善
		現状の成果を維持する中で、高騰する作物栽培用消耗品の増額や、第1整備実習室の電動シャッター修繕、アスパラ用防除機・耕うん機の備品を購入していく。	予算反映額 (概 算)	2,183千円	
今後の改善点	新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関との連携を図ることにより、効率的な運営が図られている。

次年度の 取組の方 向性・改 善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現行の支援策を継続し、優良な経産牛の確保に努める。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現行のままで妥当と考える。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		優良な経産牛を確保するための支援策の検討を行う。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	十勝市場に対する町内黒毛和牛の価格比	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	89.8	89.2	83.8		
		達成率	%	89.8	89.2	83.8		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	肉用牛の振興に基づく事業であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	優秀な繁殖雌牛の牛群整備ため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	事業主体への経費の一部助成に努めており、適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		原稿の支援策を継続し、優秀な繁殖雌牛の牛群整備を図る。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現行のままで妥当と考える。				予算反映額 (概 算)	0千円	現状維持
今後の改善点		生産者のニーズに対応した支援策を検討するため、関係機関と連携を図る。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		町産材活用促進事業		課・グループ名	農林政策課耕地林務グループ	
				評価者名	経済部長 後藤 秀人	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興			項	02 林業費
	施策(中)	02 付加価値の向上			目	01 林業総務費
	施策(小)	02 FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化			大事业	02 林業推進事業
事業期間		10年度以上		平成19年度～令和9年度		
要求区分		継続		町長重点政策 ー		
根拠法令等				経費区分		政策的経費
事業概要		美幌町産FSC森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備、認証材の付加価値向上を図る。 ・美幌町産材活用促進事業補助金 町内で産出されたFSC認証木材を使用し、町内に住宅を新築又は増改築、建売住宅を購入し当該住宅に居住する者に対し経費の一部を補助する。				
事業目的		認証材住宅の普及拡大				
事業の対象		町産認証材				
実施結果		【実施結果】 認証材住宅の建築費補助				
現状と課題		【現状と課題】 木材価格の変動や物価高騰による新築件数の減少傾向が補助実績数に影響を及ぼす。				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	ー	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

		令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費	(千円)	4,067	5,110	7,877	3,879	7,815	7,815
国支出金		2,556	774	3,240	1,441	3,240	3,240
道支出金		0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0
その他		0	3,071	0	0	0	0
一般財源		1,511	1,265	4,637	2,438	4,575	4,575
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	4,067	5,110	7,877	3,879	7,815	7,815

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	FSC認証材使用量	目標	m3	500	500	500	500	500
		実績	m3	78	130	130		
		達成率	%	15.6	26	26		
指標2	木製品に対するFSC認証木材使用量	目標	m3			150	150	150
		実績	m3			140		
		達成率	%			93.33		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域材を利用し木材の地産地を推進するためには木材の付加価値向上と利用促進が必要であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	町内住宅の住環境整備への視点等取組みは、美幌町産FSC森林認証材の成長・発展に繋がるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町産材活用促進事業補助金を行うことで適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				0千円		
		現状の計画で進めることが妥当である					予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		実態に合った適正な補助単価の設定						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	農林政策課耕地林務グループ	
		評価者名	経済部長 後藤 秀人	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	款	06 農林水産業費
	施策(大)	03 林業の振興	項	02 林業費
	施策(中)	02 付加価値の向上	目	01 林業総務費
	施策(小)	02 FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化	大事業	02 林業推進事業
事業期間	終期未定		平成28年度～令和9年度	
要求区分	継続		町長重点政策	－
根拠法令等	美幌町地域材利用推進方針			経費区分 政策的経費
事業概要	FSC® 森林認証材を使用した木製品の開発を行い、町産材の利用促進及び付加価値向上を図る。			
事業目的	FSC® 森林認証材の利用促進・付加価値向上			
事業の対象	FSC® 森林認証材			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 製品開発 【現状と課題】 FSC森林認証材を使用した木製品の開発を行い、安価で安全性を見据えた製品開発を行う必要がある。			
事業進捗度	2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	433	498	539	539	2,214	2,214
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	1,694	－
一般財源	433	498	539	539	520	2,214
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	433	498	539	539	2,214	2,214

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	FSC認証材を使用した製品開発個 数	目標	個	4	4	4	4	4
		実績	個	5	2	2		
		達成率	%	125	50	50		
指標 2	各種イベントにおける町産FSC認 証材のPR実施回数	目標	回	5	5	5	5	5
		実績	回	1	1	4		
		達成率	%	20	20	60		
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかど うかを評価する。		妥当	美幌町産F S C森林認証材を推進するためには、森林認証材を使 用した製品開発が必要であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを 評価する。		高い	美幌町産F S C森林認証材の木製品への支援等取組みは、F S C 森林認証の普及や認証材利用促進の発展に繋がるため有効である			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経 費は適正かを評価する。		高い	対象を美幌町産F S C森林認証材に絞ることで、一般材と差別化 を図ることができ適正な経費となっている。			
次年度の 取組の方 向性・改 善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 引き続き、F S C森林認証材の取組を推進し、町内外への普及及び製品開発を行い地場産 材利用促進事業を実施する。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 利用推進及び認証製品の付加価値向上のために実施す る。				予算反映額 (概 算)	1, 675千円	拡充
今後の改善点		認知度向上						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	町内木質ペレットストーブ設置累計台数	目標	台	100	100	100	100	100
		実績	台	77	79	82		
		達成率	%	77	79	82		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「低炭素な町づくり」及び「美幌町新エネルギービジョン」に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	化石燃料の代替によるCO2排出削減への取組みは、地球温暖化防止の発展に繋がるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	木質ペレットストーブ購入補助金を行うことで適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		現状の計画で進めることが適当である				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		ペレットストーブの認知度（オール電化住宅への設置によるコスト削減、国産ストーブの性能向上）						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域経済の振興は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績値からも有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実績値からも有効である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		引き続き、経営指導は個別相談を原則とし、経営改善に繋げていきたい。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	中心市街地の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	空き店舗の活用につながるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	商工会議所と同じ補助率であり経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	起業家相談の際等に中心市街地への出店を推進していく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	商店街の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内での購買力が増しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	利用率からも十分な成果が出ており、適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	各店舗の顧客満足度を高める工夫が必要。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	すでに関係団体と役割を分担しながら取り組んでいるため町が実施する事業については妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光客へPRするために、協議会に参画して広域で取り組むことは有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	広告などについて随時見直しを実施し適正な事業実施に努めている。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		関係団体と連携し現状の計画で進める。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状の規模で事業を実施する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		コロナによる移動制限が解除され、美幌峠の入込数は回復したものの、観光客を街なかへの誘導する仕組み作りが課題である。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	観光物産協会に対する運営負担であり、本町の観光振興を図るうえで必要なため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光振興を図るために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	団体に対し一定のルールに基づいた負担を定めており適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 観光物産協会は、平成31年度からJRの乗車券販売を開始し、サイクルツアーなど新規事業が展開されている。			評価結果
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の規模で事業を実施する。			現状維持
		予算反映額 (概 算)		0千円	
今後の改善点	引き続き各団体と連携し、観光革新戦略ビジョンを推進する。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	宿泊施設事業者との懇談会数	目標			1	3	3	3
		実績			1	1		
		達成率	%		100	33.3		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		検討	町が必要とする規模の宿泊施設に建設に対する補助を検討する。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	現有の宿泊施設に対する公平性が必要。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	町内の宿泊施設が満室で他自治体の宿泊施設を利用していることが多々あり、経済効果を生み出すために誘致が必要。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 美幌グランドホテル跡地へのホテル建設が決定し、竣工はR5.10を予定している。					評価結果	
		○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の規模で事業を実施する。					現状維持	
	予算					予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		町が必要とする宿泊施設（規模や設備）を精査する必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	ツアー参加者数 (令和2年度から事業化)	目標		100	200	250	250	250
		実績		6	109	134		
		達成率	%	6	54.5	53.6		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	新たな観光施策であることからガイド事業者に対し当面支援が必要。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	滞在型観光は町内経済の波及効果も見込まれることから有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	主に企業版ふるさと納税を財源に事業を推進している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		地域おこし協力隊の任期が終了したが引き続き連携して事業を実施する。						
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減					縮小	
		地域おこし協力隊の任期が終了したため、予算規模を縮小して事業を実施する。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		ツアー実施に伴う受入体制の構築が課題である。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	日帰り農業体験受入実績	目標	人	50	0	50	100	100
		実績	人	0	0	2		
		達成率	%	0	0	4		
指標 2	農家民泊受入実績	目標	人	20	0	20	20	20
		実績	人	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「美幌町観光まちづくり協議会」が令和3年度をもって解散した事により、令和4年度からはみらい農業センターが事務局となり			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		低い	新型コロナウイルスの影響により一部の事業しか実施できなかった。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		低い	新型コロナウイルスの影響により一部の事業しか実施できなかった。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供する中で都市農村交流を図り、農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力を発信するとともに、新たな農業収益策としての確立を目指す。						改善
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減				新型コロナウイルスも落ち着き、以前の成果を取り戻していく中で、教育旅行説明相談会（東京等）の旅費を計上した。	予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		新型コロナウイルスも落ち着き、受入農家の推進拡大と来町校の誘客を積極的に取り組みしていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	特産品開発等の支援件数	目標	件	4	4	4	4	4
		実績	件	4	3	2		
		達成率	%	100	75	50		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	美幌町の特産品開発のための支援であり妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	経費の助成を行うことにより、新たな特産品開発を促す制度であり、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	補助対象経費の3/4で上限を50万円として定めており、他の自治体等と比較しても経費は妥当である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		制度の周知方法を検討する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		現行の補助制度を維持する。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		審査するにあたり、審査項目の見直しや過去に支援した事業者に対し事業効果を検証する必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	遠方の人に対して直接賞品をPRすることができるため一定の支援は必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	旅費・配送料を町で支援することでイベントへの参加を促すことに寄与している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	イベントにおける商品の販売だけでなく、地域のPRも行うことができる。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現行の助成制度を継続する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現行の規模で事業を実施する。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		助成制度を広く周知する方法を検討する。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	会員を対象とした販売（セール）の実施回数	目標	回	0	1	1	1	1
		実績	回	1	1	1		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	会員が高齢化しており郵送による案内は妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	会員に対して個別で案内している。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	商品構成において、利益が出るよう販売価格を設定している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状の規模で事業を実施する。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				0千円		
		観光物産協会の補助事業で実施する。			予算反映額 (概 算)			
今後の改善点		マンネリ化しないために販売物品を定期的に見直す必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	町道整備延長	目標	m	785	1,032	225	478	586
		実績	m	795	112	225		
		達成率	%	101.27	10.85	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	道路管理者（町）が行うべきものであり、道路の交通量・損傷状況等に応じて実施のタイミング等を判断し、実施している。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	路線の状況に応じた適切な工法（道路改良・オーバーレイ・歩道整備など）により実施している。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	道路交通量や損傷状況を加味した上で整備路線を決定していることや、積算は道単価を適用し決定していることから適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		道路インフラは町民生活にとって必要であること、公共工事という役割からも事業費は一定規模必要であるため、現状維持とする。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		実施箇所によっては予算額の増減はあるものの、必要に応じて実施する。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		技術職員の人材確保等による必要予算・事業費の確保、立地適正化計画策定後の道路含めたインフラ整備の優先順位・整備手法の決定						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	概ね通勤時間帯までに除雪を終えている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	直営・民間と役割分担をし実施している。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き、降雪、堆雪状況に応じ除雪事業を実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		降雪状況によって予算額の増減はあるものの、引き続き事業を実施する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	直営及び民間を含めた更なる効果的な除雪体制の検討				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

		令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費	(千円)	23,831	28,778	32,670	30,462	34,600	34,600
国支出金		0	0	0	0	0	0
道支出金		0	0	0	0	0	0
地方債		23,800	28,700	32,600	30,400	34,600	34,600
その他		0	0	70	0	0	0
一般財源		31	78	0	62	0	0
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	23,831	28,778	32,670	30,462	34,600	34,600

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	住宅リフォーム助成件数	目標	件	100	90	90	100	100
		実績	件	74	89	93		
		達成率	%	74	98.89	103.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	安全で快適な住環境を確保し、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る観点から、行政が主体となることが妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	住環境の整備と地域経済の活性化に貢献しているため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	住宅リフォーム促進補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		住環境の向上と地域経済の活性化に寄与するものと考えており、令和5年度に制度内容の見直しを行った。						
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 補助対象工事費の引下げや事業の再度利用を認めたことにより件数100件を見込み、1件あたりの補助金額は事業の過去実績から346千円として算出している。				予算反映額 (概 算)	1,930千円	拡充
今後の改善点		需要予測を続け、制度内容の見直しについて検討を行う。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		住宅耐震改修補助事業		課・グループ名		建設課建築グループ		
				評価者名		建設部長 遠國 求		
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり			予算科目	款	08 土木費	
	施策(大)	06 住宅環境の整備				項	05 住宅費	
	施策(中)	02 民間住宅・宅地整備の推進				目	01 住宅総務費	
	施策(小)	01 住宅リフォーム制度の充実支援と耐震改修促進				大事業	01 建築事業	
事業期間		終期末定						
要求区分		継続		町長重点政策		○		
根拠法令等		美幌町耐震改修促進計画に基づく美幌町住宅耐震改修補助金交付要綱				経費区分		政策的経費
事業概要		耐震化を促進し、安全な住環境を確保する。						
事業目的		耐震改修工事を行う事により、耐震性能を向上を目的とする。						
事業の対象		町内に存する旧耐震基準の木造住宅に居住する町民。						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 補助金を交付することで、住宅の耐震化の意欲を向上を喚起する。						
		【現状と課題】 これまでに当該事業の活用は無く、対象となる旧耐震の住宅の減少等も理由の一つに挙げられると考えるが、地震が少ない地域性であることが最大の要因と考える。						
事業進捗度		4 予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容	当該事業を適用する住宅の申し出が無い。		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	0	0	300	0	903	903
国支出金	0	0	75	0	225	225
道支出金	0	0	150	0	451	451
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	75	0	227	227
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	300	0	903	903

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	
指標1	住宅耐震改修補助件数	目標	件	1	1	1	3	3
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	住宅の耐震化を促進し、安全な住環境を確保する観点から、行政が主体となることが妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	耐震改修促進のために有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	住宅耐震改修補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現在まで実績はないが、美幌町耐震改修促進計画に基づき、住宅施策の一環ととらえ、令和5年度に制度内容の見直しを行ったことから現状維持が妥当と考える。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			耐震診断(1件)、耐震設計(1件)、耐震改修(1件)として算出している。	予算反映額 (概 算)		603千円
今後の改善点		広報やホームページなどによる情報発信を行う。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	民間事業者との連携の下、行政が総合窓口として事業を担うことについては、昨今の情勢を勘案しても、妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	個人財産であることから、全てを解決することは困難で有るが、今やるべき手段は概ね実施しており、有効性は普通。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	除却への税投資に対して、固定資産税の減収と捉えたと、費用と成果のバランスを評価することは難しいため、検討。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 美幌町空家等対策計画に基づいた空き家対策（保全・利活用・除却）の推進をリーフレット等を活用して推進するとともに、空き家対策関連の補助制度を見直し、更なる不良住宅等の解消及び空き家の有効活用を図り、空き家の解消を促進する			評価結果
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 前年同様、不良住宅等の除却支援制度及び空き家の利活用制度を実施する。			改善
		予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点	危険住宅の解消に向けた段階的な対策及び空き家利活用方法の検討。				

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		外部講師活用事業	課・グループ名	学校教育課学校教育グループ	
			評価者名	教育部長 遠藤 明	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実		項	01 教育総務費
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実		目	03 教育振興費
	施策(小)	01 地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実		大事業	02 学校教育振興事業
事業期間		終期末定			
要求区分		継続		町長重点政策	－
根拠法令等				経費区分	政策的経費
事業概要		地域の協力のもと、水泳・スキー・スケート授業等において、外部講師によるグループでの個別指導を行い、効果的な授業内容の充実を図る。 また、博物館との連携による体験授業や「総合的な学習の時間」における児童生徒の興味関心に基づいた課題解決型の授業を進める。			
事業目的		地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実を図る。			
事業の対象		児童・生徒			
実施結果・現状と課題		【実施結果】 各種競技団体からの外部講師や博物館学芸員と連携し「地域とともにある学校づくり」に取り組んだ。			
		【現状と課題】 外部講師のなり手不足と高齢化等に伴う人材確保が課題である。			
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	404	405	678	482	678	678
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	300	0	0	0	500	0
一般財源	104	405	678	482	178	678
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	404	405	678	482	678	678

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	外部講師の派遣	目標	名	32	32	19	32	32
		実績	名	21	19	22		
		達成率	%	65.62	59.38	115.79		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域連携のもと、専門知識・技能を習得することが可能となり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	外部講師による指導は、児童生徒の成長、学校教育の充実につながるため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は適正人数及び回数による負担金等となっており、適正な経費と考える。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現状維持のまま実施することが適当である。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持のまま実施することが適当である。			
					予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		年々、外部講師の確保は厳しくなっていることや、水泳協会の指導者の多くが高齢で講師派遣自体が難しいこと等の状況ではあるが、関係団体の理解と協力を得られるように働きかけを行う。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		学校運営改善事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ			
				評価者名	教育部長 遠藤 明			
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	01	教育総務費
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実				目	03	教育振興費
	施策(小)	04 地域と一体となった学校づくりの推進				大事業	02	学校教育振興事業
事業期間		終期末定						
要求区分		継続		町長重点政策	○			
根拠法令等		学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律					経費区分	政策的経費
事業概要		学校は、教育活動やその他の学校運営について、地域の教育力を積極的に活用しながら「地域とともにある学校づくり」を推進する必要があることから、学校運営協議会制度を活用し、地域の教育力の向上を図る。 各学校運営協議会の開催を進めるとともに、地域応援団や、学校運営協議会間で連携会などにより小中連携を強化し、学校・地域・家庭の連携を深めていく。						
事業目的		「地域とともにある学校づくり」を推進する。 学校（教育）、地域（協育）、保護者（共育）による3つの教育ネットワークを構築する。						
事業の対象		学校運営協議会委員、地域住民、保護者、教職員						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 学校運営協議会の開催や、3つのきょういく応援団との連携により、学校と地域と情報共有や委員の資質向上が図られた。 【現状と課題】 学校運営協議会の役割や協議会自体について、地域への更なる周知が必用である。また、学校運営協議会連携会を開催し、各学校間における協議会の連携及び情報共有を図ることが課題。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		-		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	703	250	1,220	393	1,370	1,370
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	0	-
一般財源	703	250	1,220	393	1,370	1,370
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	703	250	1,220	393	1,370	1,370

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	学校運営協議会委員の委嘱	目標	名	50	56	53	54	54
		実績	名	56	53	54		
		達成率	%	112	94.64	101.89		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	学校と地域が目標を共有し、一定の権限を持って学校運営に参画するために、学校運営協議会委員を委嘱することは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	美幌町の子どもを地域で育てる仕組みの構築や、地域の力で児童生徒のさらなる成長が期待できることから、有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	費用は、委員の出席報償と外部講師の保険料、活動経費であり、地域活動等を行っていく上で適正と考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		地域の子どもは地域で育てる仕組みづくりのため、「3つのきょういく応援団」を活用し、地域に開かれた信頼に応える学校づくりを推進していく。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			各学校の運営協議会において小中一貫教育に向けた協議が必要なことから拡充とした。			
					予算反映額 (概 算)	150千円		
今後の改善点		学校運営協議会連携会での情報共有等を通じて、各学校運営協議会の課題解決を図る。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町奨学金条例に基づき、教育を受ける機会の確保及び美幌高校の間口を維持するため、町が支援することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	奨学金については、条例第１０条における選考を行い、報徳寮入寮維持に貢献しているため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	奨学金については、教育を受ける機会の確保、美幌高校については、報徳寮が維持されており、入寮希望者への効果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		支援内容の一部を見直し、学習支援及び高校の魅力発信政策の充実を図るとともに、効果が薄いと考えられる間口対策支援金を廃止。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			拡充
		支援内容の一部を見直し、学習支援・高校の魅力発信政策の充実を図るとともに、効果が薄いと考えられる間口対策支援金を廃止。	予算反映額 (概 算)	317千円	
今後の改善点	各種支援策の効果検証を十分に行い、限られた予算の中で生徒確保のための効果的な支援内容を検討する必要がある。				

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		小中学校給食費支援事業		課・グループ名		学校給食課学校給食グループ			
				評価者名		教育部長 遠藤 明			
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	10	教育費	
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	05	保健体育費	
	施策(中)	06 町長の重点施策				目	03	学校給食センター費	
	施策(小)	01 多子世帯への支援				大事業	01	学校給食運営事業	
事業期間		3年度		令和2年度～令和4年度					
要求区分		継続		町長重点政策		○			
根拠法令等		美幌町第3子以降学校給食費補助事業実施要綱					経費区分		政策的経費
事業概要		多子世帯への子育て支援として、第3子以降の小中学校給食費の無償化を行う。							
事業目的		該当者する保護者から補助申請を受け付け、給食費相当金額を補助する。							
事業の対象		第3子以上の小中学生の給食費を支払っている保護者							
実施結果・現状と課題		【実施結果】 対象となる多子世帯の保護者へ補助金を交付。第3子以降の小中学生の給食費が無償化となり子育て支援を図った。							
		【現状と課題】 保護者から喜ばれており、事業拡大の要望もあり、子育て支援として事業継続が必要である。							
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		-		左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	6,131	6,792	7,123	6,582	7,167	7,000
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	1,056	0	0	0	-
一般財源	6,131	5,736	7,123	6,582	7,167	7,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	6,131	6,792	7,123	6,582	7,167	7,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	対象多子世帯が補助金申請を行った割合	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	子育て支援が求められている中、今後とも継続させる必要があり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	対象となる全ての多子世帯へ補助がされており有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	対象経費を同居の第3子以降の給食費相当額に限定することで、効率性は高く経費も適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		申請手続きの効率化及び対象者の拡充						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ
語学教育充実事業		評価者名	教育部長 遠藤 明
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款 10 教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実	項 01 教育総務費
	施策(中)	06 町長の重点施策	目 03 教育振興費
	施策(小)	03 語学教育の充実	大事業 02 学校教育振興事業
事業期間		令和2年度～令和4年度	
要求区分		休廃止 ☐ 町長重点政策 ☐ ○	
根拠法令等		学校教育法	経費区分 政策的経費
事業概要		児童生徒等への語学教育充実のため、校内環境の整備や語学教育専門の教員配置など、語学教育における環境と指導体制の構築を図る。 ●英語の授業以外で学べる環境の創出 ●ネイティブ・スピーカー（ALT）の活用による授業改善 ●小学校での「Englishルーム」活用	
事業目的		グローバル社会に対応した必要な力を身につけることを目的に、実践的な英語等の語学力育成を推進するため、語学教育の充実と強化を図る。	
事業の対象		地域住民、児童、生徒、教職員、ALT	
実施結果・現状と課題		【実施結果】 外国語の専門教員を配置し、各学校を巡回指導する体制により、教員の外国語の指導力と英語力の向上が図られた。また、全ての小学校に開設されているEnglishルームの整備充実が図られた。 【現状と課題】 語学教育の強化と充実のため、ALTの2名体制を確保する。また、加配要望により配置されている外国語の専門教員についても継続して要望する。	
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由 - 左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	1,035	2,060	60	57	0	0
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	0	-
一般財源	1,035	2,060	60	57	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,035	2,060	60	57	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	専科教諭の配置	目標	人	1	1	1	
		実績	人	1	1	1	
		達成率	%	100	100	100	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	外国語を学ぶための環境が整備され、児童の英語に対する関心が高まっており、指導体制の充実に向けた取組として妥当である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	児童の英語に対する関心が高まっており、極めて有効な手段である。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	専科指導教員の配置について、国や道に対し引き続き要望し、適正な配置となるよう進めることは、効率性が高いと考える。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止					評価結果
		全ての小学校に「Englishルーム」が開設され、語学教育の整備充実が図られたため、本事業は廃止とした。					休止・廃止
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減			予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		A L T 2名体制の確保と、外国語の専門教員の配置を取り進める。					

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	学校給食課学校給食グループ	
高校生食育推進事業		評価者名	教育部長 遠藤 明	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款	10 教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実	項	05 保健体育費
	施策(中)	06 町長の重点施策	目	03 学校給食センター費
	施策(小)	04 高校における食育の推進	大事業	01 学校給食運営事業
事業期間	3年度	令和2年度～令和4年度		
要求区分	継続	町長重点政策	○	
根拠法令等				経費区分 政策的経費
事業概要	美幌高等学校が生産した小麦を使用して商品化した美高うどん、美高らーめんを、生徒自身に食してもらう食育を目的とするとともに、魅力ある高校づくりを支え、生徒確保に向けた施策として実施する。 令和2年度、令和3年度前半は、新型コロナウイルス感染拡大防止や緊急事態宣言で実施できず3学期実施予定。今後、生徒減少で小麦の生産継続不透明。小中学生と同じく地元産農産物や加工品の献立を食育として提供するなど、メニューの検討が必要。			
事業目的	美幌高等学校へ、年3回給食を提供する。			
事業の対象	美幌高等学校の生徒			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美高らーめんを給食として提供し生徒達の食育を推進した。コロナ禍により提供回数は1回となった。 【現状と課題】 提供機会が限定される献立のため、実施回数の見直し（削減）が必要。			
事業進捗度	2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	0	58	214	65	65	65
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	58	0	0	0	-
一般財源	0	0	214	65	65	65
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	58	214	65	65	65

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	美幌高等学校の生徒への給食の提供回数	目標	回	4	3	3	3	3
		実績	回	0	1	1		
		達成率	%	0	33.33	33.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	自ら育てた小麦を活用し給食として提供する事業であり、効果的な食育推進であることから妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	農業科の特色を生かす事業でもあり、魅力ある高校づくりとして有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	小中学校の給食提供日に合わせて実施しているため効率的であり、商品のPRにもなるため成果は高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		原材料の収穫、製造を考慮すると提供回数（年3回）の見直しが必要。さらに地元農産物や加工品も加えた新たな献立の提供なども今後検討が必要である。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	配布人数	目標	人	410	350	295	295	260
		実績	人	339	272	298		
		達成率	%	82.68	77.71	101.01		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	事業終了後のアンケート等からも好評であり、子どもの読書習慣づくりを支える事業として有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	支援ボランティアや関係団体の協力を得て実施している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		現状維持のまま実施することが適当。						
今後の改善点		現在の活動について職員だけでは対応が困難なため、ボランティアの支援が必要不可欠だが、ボランティアの後継者不足が大きな課題となっているため、引き続き人材確保を図っていく。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	博物館課博物館グループ	
		評価者名	教育部長 遠藤 明	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実	項	04 社会教育費
	施策(中)	05 博物館の充実	目	06 博物館費
	施策(小)	01 学校教育との連携の充実	大事業	02 博物館活動推進事業
事業期間		単年度		
要求区分		継続	町長重点政策	－
根拠法令等		博物館法		経費区分 政策的経費
事業概要		美幌町の自然や歴史、芸術を後世に伝えていくため、調査研究・資料収集を行い、収集した資料は適切に管理・保管する。また、これら資料を活用した、各種講座や特別展・企画展・ロビー展等の展示会を実施し、ふるさとの自然や歴史、芸術等について町民に広く紹介する。さらに、学校教育と連携した体験学習や博物館講座などの主催事業を積極的に進め、児童・生徒の知的好奇心の向上を目指す。加えて、これらの事業実施において、講師や協力員の支援を図り、内容を充実させる。		
事業目的		美幌町の自然や歴史、芸術等を後世に伝える。 美幌町の自然や歴史、芸術等について認識を広げ、郷土愛を醸成する。		
事業の対象		一般町民		
実施結果・現状と課題		【実施結果】 自然や歴史、芸術などに関する資料を収集した。これら資料を用いて展示や各種講座を開催。加えて学校教育と連携した体験授業の実践した。 【現状と課題】 年々、実施件数および内容が充実してきている。そのため、対応できる職員が不足してきていることから、ボランティアなどの協力が不可欠となっている。		
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－ 左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	13,125	7,951	9,060	8,444	9,484	9,800
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	4,580	0	2,000	2,000	3,500	－
一般財源	8,545	7,951	7,060	6,444	5,984	9,800
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	13,125	7,951	9,060	8,444	9,484	9,800

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	講座教室等	目標	回	140	140	140	140	140
		実績	回	151	103	138		
		達成率	%	107.86	73.57	98.57		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	ふるさとの自然、歴史、芸術等の貴重さ・面白さを、多くの町民に理解してもらい、興味を抱いてもらうためには、不可欠。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	講座教室等の充実を図ることは、目標達成のため、非常に有効な手段である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	類似事業を整理（統合・廃止）したりすることで、経費の効率化を図っている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが妥当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		講座教室は今後も充実させる。また、教育旅行や企業研修の受け入れなどを充実させるため、課や組織を越えて連携を図っていく必要がある。						

令和4年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	社会教育課社会教育グループ
多文化共生推進事業		評価者名	教育部長 遠藤 明
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款 10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実	項 04 社会教育費
	施策(中)	06 町長の重点施策	目 02 社会教育振興費
	施策(小)	01 外国人労働者等に対する教育機会の推進	大事業 03 成人教育事業
事業期間	終期未定	令和2年度～	
要求区分	継続	町長重点政策	○
根拠法令等			経費区分 政策的経費
事業概要	町内に在住する外国人技能実習生等に日本文化や教養を学べる機会提供して、日本や美幌町の理解を深めるとともに町民との交流機会を創出する。 事業開始年度 令和2年度 対象事業所 8事業所（JAびほろ、クレードル食品、梅高組、一戸農場、勝本車輛、中鉄工所、グループホームとりさと和、アメニティ美幌）		
事業目的	外国人技能実習生が単に労働だけではなく、美幌町で日本文化や教養に触れてもらい、美幌町に愛着を持って就労・滞在できるような生涯学習の機会を提供しながら支援を行う		
事業の対象	町内在住の外国人技能実習生等		
実施結果・現状と課題	【実施結果】 外国人技能実習生が所属する企業と連携して、講座を設定し外国人実習生に日本文化への理解を深めてもらう予定。 【現状と課題】 企画実施の窓口として調整を図り、実施に向け取り進めている。		
事業進捗度	2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由 -	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	40	31	190	27	163	163
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	100	27	0	0
一般財源	40	31	90	0	163	163
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	40	31	190	27	163	163

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	実施回数	目標	2	3	4	4	4
		実績	1	1	2		
		達成率	%	50	33.33	50	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	事業所においては通常業務の合間で本事業の準備等を行うことは困難であり、連絡調整等の業務を町が行うことは妥当である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	対象が外国人技能実習生に限定されていること、また日本文化等の体験に事業内容を絞っていることから有効性は高い。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町内在住者に協力・指導を依頼するケースがほとんどであり、最小限の経費で事業実施ができていることから効率性は高い。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		町長重点施策としての取組ではあるが、令和4年度に策定した第8次美幌町社会教育中期計画において多文化共生に関連する推進目標が盛り込まれたことや外国人技能実習生受入の事業所が拡大傾向にあることから、次年度以降も引き続き現状の取組を継続したい。					現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					
		対象事業所数は増加傾向であるが引き続き町内講師の活用による経費の節減等に努め、事業費総額は現状維持により事業実施を取り進めたい。			予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		外国人技能実習生の転出入に伴う受入企業等情報収集、日本文化以外の体験分野拡大（日本語学習等）					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	名簿作成(更新)	目標	回	1	1	1		
		実績	回	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2	学習活用の実施回数	目標	回	1	1	1		
		実績	回	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	本町関係者の実践や経験を還元してもらい、町民が刺激を受けたり夢や希望を持つ機会の提供は町としての実施が妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	存事業での活用他学校の授業の一環として取り組み、子どもたちから高齢者まで本事業の対象とすることが効果的である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	現行事業費で実施可能な範囲で取り組み、より質の高い内容を提供することが最も効果的であると判断している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止					評価結果	
		現状維持であるが、次年度以降の取組をどのように進めていくか手法も含めて検討が必要。						
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減					休止・廃止	
		事業そのものの方向性が確立されておらず事業効果が得られないことから皆減。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点								

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の美幌町の文化を支える青少年の育成の取り組みとして役をはたしている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	補助金を支出し、コンクールに出場する機会を応援する現状の形が適当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	現状として、補助の対象項目・対象者について適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		目標件数に達しておらず、より効果的に補助を活用いただけるよう、周知を図る必要がある。申請については出来るだけ簡素に様式を作成しているが、申請希望を受けた時点で丁寧な説明が必要である。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状維持で取り組みを行い、要望が多くいただいたときに拡充の方向性を検討したい。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		SNS等も活用した周知を行い、利用を促進していく。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標1	補助団体数	目標	団体		3	3	3	3
		実績	団体		3	3		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	スポーツ活動を普及・振興を図るためには、各種スポーツ団体との連携・支援が不可欠であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	スポーツ団体の育成支援は、青少年の健全育成とスポーツ活動の活性化に繋がることから有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町(教育委員会)及びスポーツ団体と連携し行うことにより適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 スポーツ団体の活動を維持継続するため補助事業を継続する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状どおりに事業を推進するための予算を維持する。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		指導者資格取得補助事業の活用拡大						

令和４年度 事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名		未来のアスリート応援事業		課・グループ名		スポーツ振興課スポーツ振興グループ		
				評価者名		教育部長 遠藤 明		
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10	教育費	
	施策(大)	05 スポーツの振興			項	05	保健体育費	
	施策(中)	03 スポーツ活動の促進			目	01	保健体育総務費	
	施策(小)	02 競技スポーツの技術力向上			大事業	03	未来のアスリート応援事	
事業期間		終期未定						
要求区分		継続		町長重点政策		－		
根拠法令等						経費区分		政策的経費
事業概要		本町の更なるスポーツ振興のため、頑張る未来のアスリートを応援することにより、地域愛の醸成や町民満足度の向上に寄与するとともに、スポーツ競技への意欲と各個の競技力を向上させていく。						
事業目的		競技力の向上及びスポーツ振興。						
事業の対象		町民						
実施結果		【実施結果】						
現状と課題		【現状と課題】 青少年の優秀な活躍や活動を支えるため、選手・指導者における活動への負担を軽減すること。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

(単位：千円)

	令和02年度決算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和06年度予算
事業費 (千円)	5,746	5,097	6,600	6,750	6,600	6,600
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	4,388	4,597	1,000	920	1,000	1,000
一般財源	1,358	500	5,600	5,830	5,600	5,600
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	5,746	5,097	6,600	6,750	6,600	6,600

(見込値)

３．評価

指標名		単位	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
指標 1	全国・全道大会等派遣補助団体数	目標	団体	25	25	25	25
		実績	団体	7	17	34	
		達成率	%	28	68	136	
指標 2	育成強化奨励金補助件数	目標	人	19	19	19	19
		実績	人	12	17	20	
		達成率	%	63.16	89.47	105.26	
指標 3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	未来のアスリートを経済的な側面から支援する必要がある。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	経済的な側面から支援することにより、競技への意欲と競技力の向上に繋がる。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町が行うことにより、公平で適正な経費となる。		
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		未来のアスリートを育成するための経済的な支援を継続する。					
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持
現行制度を推進するため事業予算を維持する。			予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		強化指定区分等の見直しを図るため、美幌町育成強化選手奨励金交付要綱を改正する。					